

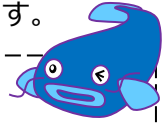
☆第114回 川に学ぼうかい☆

長崎大水害42年☆浦上川クリーン活動!!

2024.6.1(土) 16:00~17:30 頃 浦上川・大橋~対堂橋付近

299名の方が犠牲となった1982.7.23長崎大水害から、今年で42年となりました。今回の活動は、「長崎大水害42年☆浦上川クリーン活動!!」として行います。

活動では、このときの大水害やその後の豪雨災害で犠牲になられた方々を追悼し、みんなで協力して少しでも浦上川をきれいにできればと思います。よろしくお願いします。



今日の活動予定 (時間は目安です。)

16:00 あいさつ、黙とう、趣旨説明 ⇒ 活動開始 17:00 ごみ分別
17:10 感想の共有、記念撮影・ごみ運搬 ⇒ 活動終了・解散 (17:30を予定)

☆長崎大水害について☆

長崎大水害では土砂災害や河川の氾濫が多発し、犠牲者299名はわが国の過去50年の風水害で最悪となっています。このとき観測した1時間雨量187mmは、今も日本記録です。

長崎大水害とは 今から42年前

1982年(昭和57年)7月23日(金)夕方に発生
死者行方不明者 299名 (過去50年の風水害で最悪)

37名もの命を奪った
浦上川上流・川平の土石流

中島川の眼鏡橋も被災

長崎市などで川の氾らんや土砂災害が多発

その時の豪雨 (日本記録)

長崎海洋気象台の雨量
24時間448mm (概ね100年に1回の雨)

長与町役場 187mm/hr (日本記録)

浦上川流域

最大1時間降水量 (mm/hr)
150mm/hr以上
100mm/hr以上

1982.7.23天気図

東シナ海からの前線に暖気流が吹き込む「湿舌」
⇒ 記録的な集中豪雨が起きやすい。

フィールド付近の浸水状況

凡	例
2.0m以上	色別
1.5~2.0	
1.0~1.5	c
0.5~1.0	b
0.5m以下	a

護岸が崩壊

大水害直後の本原橋上流側

川まな大橋地区フィールド

最大1.5m浸水

浦上川の復旧

被爆石積み護岸

大水害時の水位 (点線)

もとの川底 (破線)

根継工

集合場所付近

ふだんは穏やかな流れ

大雨で激流に

水害の直後、浦上川の改修工事で、川底を倍近く掘り下げ、水害前より安全に。

大水害 = 気候変動に伴う水災害の先駆け

東シナ海北部の海水温の推移

長崎大水害: 1982年発生

1900年

2020年

82年で約1.0度上昇 120年で約1.3度上昇

青丸は各年の値、青太線は5年移動平均値、赤線は長期変化傾向を示す。平年値は1991年~2020年の30年間の平均値。

気象庁HP 「東シナ海北部の海域平均海面水温(年平均)」より
統計期間 1900~2022年

温暖化に伴う海水温上昇が大水害の背景

浦上川洪水ハザードマップ (2022年3月、各世帯に配布)

最大規模の大雨を、長崎大水害の約2倍となる24時間雨量1,040mmとして想定した場合の浸水想定区域

A	3m~5m未満
B	1m~3m未満
C	0.5m~1m未満
D	0.5m未満

避難場所 山里小体育館

フィールド付近は、概ね1~3m浸水の恐れ

洪水に備えて（気候変動の適応）

食料・水や防災グッズを準備
☆保存食品など、3日分の備えを。

ハザードマップを理解
☆自宅や地域の危険性の確認を。

避難場所と道順を確認
☆状況により、自宅2階へ
☆避難場所（山里小体育館等）へ

避難の判断 ☆TVやネット等で「大雨に関する気象情報」等の入手を。特に、**大雨特別警報**に留意。

家族や友人等で話し合い、日頃から準備を。 7

日頃の取組み（気候変動の緩和）

アルミがん 整理中 **積み込み中**

リサイクル活動（紙類・アルミがんの回収・資源化）
(当会フィールドそばの自治会での取組み事例)

私たちが出すゴミの**77%が燃やせるゴミ**。このうち約50%を占める水分以外では、その**約50%以上が紙類**とのこと。(長崎市清掃事業概要 2018)

効果 ☆ゴミの減量やCO₂抑制等に役立つ。
☆自治会の収入源となる。 ☆防災意識を育む。 8

浦上川の氾らんの原因は、河川の改修が不十分であったことと、流域の都市化が指摘されています。大水害を受けて、浦上川では改修工事が行われ、川が倍近く掘り下げられました。近年、地球温暖化に伴う気候変動により、2018年西日本豪雨災害、2019年東日本台風豪雨災害に続き、2020年熊本の豪雨の球磨川の氾らん等、各地で豪雨災害が頻発しています。長崎大水害は、東シナ海の海水温上昇が背景にあり、気候変動に伴い頻発する豪雨災害の先駆けといえます。豪雨災害に備えて、災害リスクの把握、気象情報の収集や的確な避難等とともに、温暖化防止に向けた日頃の取組みなど、気候変動の適応と緩和が求められます。

☆川まな大橋地区の活動とこれから☆

川に学ぼうかい in 浦上川（大橋地区）は、2005年8月6日に活動を開始し、防災、環境や歴史、平和に思いをはせながら、少しずつ私たちのライフスタイルを見つめなおしていけたらいいな〜と願って活動を続け、間もなく19年となります。

これからも、「多様なメンバーで、ゆるく、細々と、楽しみながら」をモットーに活動を継続し、まちごみ・川ごみ・海ごみの関係や防災・環境意識の向上などを念頭に、浦上川や当会の魅力なども少しずつ発信していけたらと考えています。よろしくお祈りします(*^^*)♪

川まなの活動のようす

第52回 (2014.2.8) 活動のようす

第53回 (2014.4.12) 集合写真

ふだんの活動は、2ヶ月に1回実施。
主に長ぐつをはいて、浦上川の流れにふれながら、ゴミを集めるという簡単なもの(^^)。 9

世界につながる貴重な歴史!!

サンタクラ教会の碑

被爆石積み護岸

本大橋

長崎大水害後の根継工

浦上川の信徒たちが、大浦天主堂で信仰を告白した信徒発見(1865年)から100年の日に建てられた記念碑

しかし、いろいろなごみが!

ごみを減らすために、みんなで取組もう!!

深い歴史を育む空間：信徒たちの信仰の場や原爆の爆心地に近く、長崎大水害の被災地にも位置。 10

原爆や豪雨災害の歴史を伝える護岸

被爆石積み護岸
1935年頃完成
1945年に被爆

根継工
長崎大水害(1982年)の後に川底を3m近く掘り下げ、石積み護岸の根元を継ぎ足した護岸

破線 = 元の川底

第47回 (2013.4.13) 活動のようす

昭和初期の豪雨災害後につくられ被爆した石積み護岸と、長崎大水害後にできた根継工の両方がみられる。 11

出会える生きものたち!!

カフセミ

ナマス 代表的な純淡水魚

アユ 川と海をつなぐ回遊魚

ミナミテナガエビ (回遊性)

アオサギ

オイカワ・カワムツ

シロウオ 江戸時代以降シロウオ漁で知られた浦上川 2016年3月、71年ぶりに確認

2016.3.24

大橋地区は、川の水と海の水が接する地点。
⇒ いろんな生きものがみれるよ!!(^^) 12

詳しくはホームページで(^^)/「浦上川」で検索! 川まな大橋地区 長崎大水害42年☆浦上川クリーン活動 (2024.6.1) 配布資料